

中学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 堀口 幹太

日 時 令和 7 年 11 月 19 日（水） 第 1 限 8:45～9:35

場 所 HR 教室

学年・組 中学校 3 年 A 組 42 人

単 元 対話文を読み、内容を話して伝える

Unit 6 The Chorus Contest

Here We Go! ENGLISH COURSE 3 (光村図書)

目 標 日常的な話題についての会話文を読み、概要や要点を理解するとともに、その要点を相手に音声的な工夫を用いてわかりやすく伝えることができる。

指導計画（全 6 時間）

第一次 新出の文法事項の理解・活用 2 時間

第二次 教科書本文の内容理解・音読練習 3 時間

第三次 教科書本文の要約・発信 1 時間（本時 6/6）

授業について

本年度、中学校 3 年生は社会的な話題について自分の考えを述べるプレゼンテーションを学年の最終活動に設定し、それに向けて 4 技能を総合的に指導している。1 学期は教科書本文の音読を重点的に行い、英語らしい抑揚や間をとって英語を読むことを指導した。2 学期前半ではプレゼンテーションの発表内容に焦点を当て、抽象→具体的の論理展開を意識して原稿を作成・発表する活動を行った。ところが、本学級においては 1 学期に学習した英語らしい話し方が、自分で作成した原稿をもとにプレゼンテーションをした際は十分に応用されておらず、デリバリーの工夫が不十分な発表が多くみられた。教科書内のモデルによる抑揚にならって行う音読活動と、自分が書いた内容に抑揚をつけながら発表する活動のギャップを埋める活動が必要であると考えられる。

そこで、本単元では「重要なフレーズが相手に印象的に伝わるように」英語を話すことを目標とし、その中で印象的に伝えるための音声的なテクニックを体系的に指導する。音声的なテクニックは杉浦（2020）の「4.1 強調する」にあげられたものを参考に、①大きく読む②小さく読む③高さを変える④ゆっくり読む⑤間を開ける、の 5 つを指導する。このうち③高さを変えるは疑問文、列挙などの言語形式によって決定されることが多いが、残りの 4 つは伝える内容や話者の意図によるところが大きい。自分が伝えたい要点を相手に印象的に伝えるために工夫して読むことができるようグループでどの部分にどのテクニックを用いるか検討させる。単元末の活動では、本文を 3 つの生徒によって異なる観点に沿って要約した文章を作成し、それをお互いに伝え合う活動を通して、同じ文章でも観点が異なることにより強調して読まれる箇所が異なることに気づかせる。

プレゼンテーションにおいては、原稿を作成し、リハーサルを行うのが準備の自然な流れである。そのリハーサル段階で、どの部分に強勢を置いたり間を取ったりするのかまで考えることができれば、最も伝えたい内容をよりよく伝えることができるようになるだろう。リハーサルの手段として、本時では伝える原稿に強勢や間、読むスピードなどの情報を原稿に直接書き込むことで音声的な工夫に生徒が目を向けることができるよう支援する。

題 目 リハーサル活動を通じた Written から Oral への橋渡し

本時の目標

- 文における強勢、イントネーション、区切りを理解し、文章を読むときに活用できる技能を身につけていく。(知識及び技能等)
- 読んだ会話文の要点を相手に印象的に伝えるために、読み方を検討し、工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 読んだ会話文の要点を相手に印象的に伝えるために、読み方を検討し、工夫しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

- 自分の考えを、要点が明確に伝わるように読み方を工夫している。
(思考・判断・表現／パフォーマンステスト（後日）)
- 自分の考えを、要点が明確に伝わるように読み方を工夫しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度／観察)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標を知る ○本文の内容を振り返る	・教師からの口頭での発問を使ってペアでやり取りを行う	
○本文の要約を作成する	・ワークシートの事実発問・推論発問にグループで答える ・発問の答えを用いて本文の要約を作成する	・要約の観点を提示し、それに向けて発間に取り組むことができるよう意識づける
○要点を印象的に伝えるための読み方を検討する	・グループで作成した要約文の読み方を検討し、原稿に書き込む ・検討した読み方で要約文を読み上げる練習を行う ・同じ観点で要約文を作成した別グループの発表を聞いて、読み方を再び検討する	・文における強勢やイントネーション、区切りについて明示的に捉えることができるようする ・観点に従って伝えるため、自分の発表をより良くさせる
○要約文を読んで本文の内容を相手に伝える	・違う観点で要約を行ったグループの発表を聞いて、相手の要約におけるキーワードをメモする	・観点が異なると強調される語句が異なることに気づかせる
参考文献		
杉浦正好 (2020). 英語スピーチ指導の理論と実践. 愛知学院大学文学部紀要, (49), 49–55.		

Common Goal

読んだ内容についてまとめ、相手に伝えよう。

Your Goal

Kota の行動や心情に注目して、本文全体をまとめよう。

Task 1 Answer in English

①What did Kota do before the contest?

②What role did Kota have in the contest?

③How did Kota feel when he heard that Tina is leaving Japan, and why did he feel like that?

(Write Your Idea)

Task 2 Write the Summary

Task1 の答えを使いながら、Unit6 での出来事を Kota を中心にしてまとめよう。

Task 3 Retell the story

①5 つのテクニックをどの部分でどのように使って読むか、上の Summary に書き込もう。

②異なるまとめ方をしたグループの発表を、聞こえてきたキーワードをメモしながら聞こう。

Common Goal

読んだ内容についてまとめ、相手に伝えよう。

Your Goal

Tina の行動や心情に注目して、本文全体をまとめよう。

Task 1 Answer in English

①Who watched Tina's performance at the contest?

②Why did Tina design the T-shirt for the chorus contest? (Write Your Idea)

③How did Tina feel after winning the contest, and why did she feel like that?

Task 2 Write the Summary

Task1 の答えを使いながら、Unit6 での出来事を Tina を中心にしてまとめよう。

Task 3 Retell the story

①5 つのテクニックをどの部分でどのように使って読むか、上の Summary に書き込もう。

②異なるまとめ方をしたグループの発表を、聞こえてきたキーワードをメモしながら聞こう。

Common Goal 読んだ内容についてまとめ、相手に伝えよう。

Your Goal 4 人のキャラクターの活躍に注目して、本文全体をまとめよう。

Task 1 Answer in English

①What did Kota and Hajin do to help Eri?

Kota: / Hajin:

②What did each character do in the contest?

Kota: / Tina

Eri: / Hajin:

③How was the result of the contest? And what brought about the result? (Write Your Idea)

* bring about ~ : ~を

Task 2 Write the Summary

Task1 の答えを使いながら、Unit6 での出来事を 4 人のキャラクターの活躍を中心にしてまとめよう。

Task 3 Retell the story

①5 つのテクニックをどの部分でどのように使って読むか、上の Summary に書き込もう。

②異なるまとめ方をしたグループの発表を、聞こえてきたキーワードをメモしながら聞こう。

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業は大きく「教科書本文全体の要約を作成する」「その要約文を原稿としてスピーチを行う」の2つの活動で構成された。要約を作成する段階では、ワークシートの種類によって「Tina の講堂や心情に注目」「Kota の講堂や心情に注目」「4人のキャラクターの活躍に注目」の3つに分かれ、生徒間で異なる視点から発問に答え、要約文を作成した。特に Tina や Kota に関する推論発問では本事例で取り扱った Unit6 より前の教科書本文で語られたストーリーの内容も踏まえつつ推論させるように仕掛けた。個人で取り組んだのち、同じ種類のワークシートを用いているペアでも意見交換をさせると、すべての生徒が推論の根拠にも気づくことができていた。一方、リーディング発問の答えを用いつつ要約をするという流れで授業を構成したため、発問の部分ですべての生徒が十分に理解できたと判断してから要約に進む必要があり、想定よりも時間がかかる活動となつた。次のスピーチにおけるデリバリーの指導が中心となる目標であったため、1時間でまとめて指導するのではなく2時間に分けて丁寧に指導すべきだったと思われる。

スピーチにおけるデリバリーの指導では、指導計画の第二次で学習した「原稿にデリバリーの工夫を直接書き込みリハーサルする」作業を行い、最後にペアを入れ替えながら読んで伝える活動を繰り返し行った。第二次で学んだ5つの音声的なテクニックを用いて、デリバリーに富んだ伝える活動ができていた。ただし上に述べたように要約を作成する活動に予定していた以上の時間がかかったため、伝え方についてのフィードバックが十分にできなかつた。

2. 研究協議

協議において主に議論されたのは、要約文を読んで相手に伝える活動が持つ課題についてである。授業者が本事例において「要約文」を採用したのは、同じ文章を異なる視点から捉え要約することで、本文中の異なる語句が強調されて読まれることを気づかせるためである。しかしながら、それをする必要性があるような目的・場面・状況の設定が不十分であった。例えば「ニュースキャスターになって校内のイベントについて伝えよう」「教科書のキャラクターになりきって、そのキャラクターが体験したことや心情を伝えよう」など、より明確な目標設定が必要であった。

またストーリーの要点となる部分だけを抽出する要約活動と、デリバリーに富んだ音読をする表現音読活動の相性についても指摘がなされた。要約してしまうと、感情をこめて読みたい部分がそぎ落とされてしまうことになり、デリバリーに焦点化した活動とマッチしないため、上に述べたような場面設定が必要となるだろう。